

テーマを設定する

日常の遊びで、水や風など身近な自然に興味をもつ姿がある。品川保育園は、園庭がなくビルに囲まれた場所にあり、自然に触れるための環境資源が乏しい中で生活する子どもたちにも、興味関心を広げていきたいと考えた。

活動① 風を感じてみよう

活動の経過

日ごろから紙飛行機を作って飛ばすことを楽しみ、天井扇の風と飛行機の動きに興味をもつ姿があり、より近くで風を感じることもできる、サーキュレーターを使った活動を行った。

環境をデザインする

< 準備するもの >

・コピー用紙 ・スズランテープ ・セロハンテープ ・サーキュレーター

探究活動を実践する

◎紙飛行機で遊んでいる子どもたちのところにサーキュレーター登場

- ・「うわ～」と言いながら風に顔や手を当てる子ども。
- ・保育者が手に持っていたスズランテープを見つけて「ちょうだい」ともらい、サーキュレーターに当ててみる。

◎風を見る

- ・スズランテープをサーキュレーターにつけたことで、風がどのように吹いているのかを見ている。
- ・風に揺れているテープを見て「紙飛行機つきたい」という子どもの発言から、つけてみる。

◎風を使って

- ・「扇風機があると飛びやすい」と言い、吹き出し口のどの場所に飛行機を置くと飛んでいくのかを確かめながら繰り返し飛ばしていた。

活動スケジュール

活動内容		時間/回	人数
①	風を感じてみよう	30分	4～6名
②	紙飛行を飛ばそう	30分	5名
③	風がたくさん吹いてきた	20分	6名
④	もっと、風を感じよう	60分	6名



振り返りをふまえた気付き

紙飛行機を飛ばすには、折り方や飛ばし方が大事であることに気付き始めている子どもたち。自分なりの方法を見出している。そんな時に登場したのがサーキュレーターであった。日々の生活の中で感じている風であるが、サーキュレーターとスズランテープが組み合わせられたことで、風の流れを視覚的に感じる事ができた。今回の活動では風を見たり感じたりできたので、今後の活動では紙飛行機にとどまらず、他にも飛ばしてみたいものを色々作って試してほしい。

活動② どれが、どこまでとぶかな？

活動の経過

いろいろな種類の紙飛行機を作り、飛び方や飛ぶ距離などについて関心をもち、友達と比べたり、声を合わせて一緒に飛ばしたりして、目標に向かって飛ばすことや競い合うことを楽しんでいるので、目印になるものを用意し、工夫しながら楽しむことができるようにした。

環境をデザインする

- ・A4 コピー用紙 ・A4 サイズ画用紙 ・自分で作った紙飛行機
- ◎飛ばす際に助走をつけるので、スタートエリアは広めにとり、スタート地点にビニールテープで目印をつける
- ◎数字のボードやフラフープを用意する



探究活動を実践する

◎いろいろな形の紙飛行機を作って飛ばす

A 児「どの飛行機が一番飛ぶかな？」

B 児「ぼくはこれを飛ばしてみようよ」

A 児「ここまでとんだよ」

C 児「こっちの飛行機は、壁まで飛んだよ」

◎どこまでとぶかやってみよう

A 児「2 だった」 B 児「4 と 5 の間だった」

などと、飛んだ場所を数字と照らし合わせて、友達と競いながら飛ばすことを楽しんだ。

A 児「7 までいくかな？」

保「行くかもしれないね。やってみようよ」 A・B 児「せーの」

A が飛行機を飛ばすが、7 まではいかない。B が飛ばした飛行機は奥にある窓にぶつかる。

B 児「窓に向かって投げればいいんだよ！」

振り返りをふまえた気づき

子どもたち同士で投げ方や紙飛行機の折り方を試したり、工夫したりして楽しんでいる。繰り返し楽しむ中で一番遠くに飛ぶ飛行機を発見し、友達にも共有している姿があった。また、新たな素材を提示したことでさらに遊びが広がり、折り目をしっかりとすると良いことに気付くなど、自分で考えてやってみることができるようになっていた。また、数字やメジャーがあることで自分たちなりに目標を立て、紙飛行機を飛ばそうとする姿があった。自分の飛ばした飛行機や友達の飛行機の飛び方をよく見て、投げ方や、紙飛行機の種類を変えるなどして自分たちで考える様子があった。今までの紙飛行機飛ばしの経験から、「どうしたら遠くまで飛ばせるのか」を考えるきっかけになっていた。

活動③ 風がたくさん吹いてきた

活動の経過

園庭のない保育園を一步出ると、ビル風が吹いてきて歩道を歩いている時や信号待ちの時に、風の温冷や、強弱を感じている。

環境をデザインする

- ◎小春日和の、時々風が強く吹く日に、木がたくさんあり、広場もあって走ることができる公園へ出かける。
- ◎複数の保育園が公園に来ていて、広い場所で走ることが難しい場合もあるが、当日は公園に来ていた園が少なく、思う存分楽しむことができた。

探究活動を実践する

◎風が吹くと落ちてくる葉っぱを、追いかけながら両手でキャッチすることを楽しむ

A「わあ～落ち葉がたくさん落ちてきたよ」

保「落ちてくる葉っぱをキャッチできるかな？」(やってみせる)

B「たのしそう。わたしもやる」

A「ぜんぜんとれないよ」

C「あ！！こっちの木からいっぱいきた」

D「わたしこっちでやってみる」

B「落ちてこなくなっちゃった」

保「なんでかな？」

A・C「かぜさーん」

D「あーきたきた！！」

C「やった！キャッチできた」

A「私も捕まえられた!!」

風の強さを感じながら、葉っぱを捕まえることを楽しんだ。



振り返りをふまえた気づき

自然の風を感じる季節や天候などの様々な条件が重ならないとできない活動だったが、その時にしか経験できないことも多い。翌日は別の公園に行ったが、「風がなくて葉っぱが落ちてこない」と、前日との違いを感じていた。紙飛行機とは違い、自分の体で自然の風を感じることはできた。今後、風車を作って回る様子を観察し、風の強弱による回り方の違いや、凧を作って凧あげをするなど、自然の風を感じる遊びも取り入れていきたい。

活動④ もっと風を感じよう

活動の経過

作った紙飛行機を飛ばして遊び、「扇風機つけてよ」と今までの活動を思い出して保育者に伝える。天井扇をつけて楽しんでいるが、「もっとつよい風があればよいのに」という男児のつぶやきをきっかけに、大型サーキュレーターを登場させた。

環境をデザインする

＜準備するもの＞

- ・45 リットルのビニール袋 ・風船 ・京花紙・ スズランテープ
- ・セロハンテープ ・サーキュレーター(小型・大型)

◎サーキュレーターを使って紙飛行機を飛ばしているところに大型のサーキュレーターを登場させる。

探究活動を実践する

◎大型サーキュレーターが登場する

・前に立ち、「わあー」と言いながら風を感じていた。自分の持っていた紙飛行機を、風が拭く方向に飛ばしたり、サーキュレーターに向かって投げたりして、試していた

◎風で飛ぶものって何がある？という問いかけに対して

・葉っぱ、紙、ビニールなどの声上がる

◎いろいろな素材を登場させる

京花紙…紙が飛んで行く方向に追いかけて、捕まえようとしていた

ビニール袋…ビニール袋の口を大きく開けて、風を集めていた。風が逃げないようにビニール袋の入口を結んだり、テープで止めようとしたりした。

風船…風船がサーキュレーターの上に浮くように工夫し、何秒間浮いていられるかななどを数えた。飛んで行ったはずの風船が、サーキュレーターの裏側にくっつくことを不思議に感じ、覗き込んでいた。



振り返りをふまえた気付き

自分で風を感じた後に各々が素材を探し、遊びが展開していく様子があった。ビニール袋を膨らませて「空気が入っている」と呟く子がいたので「風と空気の違いは？」と子ども達に問いかけてみたい。

＜専門家より＞

・「なんでだろう？」と子ども達に問いかけることで一緒に考えるきっかけとなり、一緒に考えることが次の気づきに繋がっていく。

・子どもは正解を知ってしまうと探求心をなくしてしまうので、正解が出なくても、共感ができるが良い。